地域医療支援病院運営委員会議事録

平成 29 年 1 月 30 日（月）19:30～

事務局　　（開会前の資料確認・委員紹介）

「それでは皆様、お時間となりましたので、始めさせていただきたいと思います。」

「皆様、本日はお忙しいなか、平成 28 年度第２回　千葉市立青葉病院
地域医療支援病院　運営委員会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。
私は、本日、司会進行を務めさせていただきます、当病院事務局事務長補佐の石井と申します。どうぞよろしくお願いいたします。」

「開会に先立ちまして、お配りいたしました資料のご確認、出席委員及び職員のご紹介をさせていただきます。」

「まず、お配りいたしました資料でございますが、運営委員会次第、席次表、委員一覧、「地域医療支援病院としての役割を果たす要件の実績報告」
「在宅医療・介護連携の推進の報告」「第１回地域医療支援病院運営委員会議事録」の、以上６点となりますが、不足はございませんでしょうか。」

「よろしいでしょうか。」
「続きまして、出席委員及び職員のご紹介をさせていただきます。
　まず、外部委員の皆様よりご紹介いたします。

○千葉市医師会副会長の、齋藤（さいとう）委員でございます。

○千葉市歯科医師会会長の金子（かねこ）委員でございます。

○千葉市薬剤師会副会長の、中村（なかむら）委員でございます。

○千葉県看護協会常任理事の、寺口（てらぐち）委員でございます。

○古川医院、院長の古川（ふるかわ）委員でございます。

○こいで　内科消化器科クリニック、院長の小出（こいで）委員でございます。

○千葉市消防局長の、大麻（おおあさ）委員でございます。

○千葉市保健所長の山口（やまぐち）委員でございます。

○なお千葉南病院、院長の中谷（なかたに）委員、千葉市保健福祉局健康部長の、

加瀬（かせ）委員、におかれましては、本日欠席となっております。」

「続きまして、内部委員及び職員をご紹介いたします。

○青葉病院、院長の山本でございます。
○診療局長の横田でございます。
○看護部長の久保でございます。
○地域連携室長の志鎌でございます。
○薬剤部長の安見でございます。
○事務長の神崎でございます。
○医事室長の髙橋でございます。
○地域連携室　副室長の菅原でございます。
以上でございます。
どうぞよろしくお願いいたします。

「それでは、開会宣言に移りたいと思います。
開会宣言は、地域連携室長の志鎌先生にお願いしたいと思います。
志鎌先生、よろしくお願いいたします。」

志鎌地域連携室長　　（開会宣言）
「これより、平成２８年度第２回千葉市立青葉病院　地域医療支援病院運営委員会を開会いたします。開会に際し、山本委員よりご挨拶をお願いいたします。」

山本院長　　（挨拶）
「では、この会議の議事進行を、当病院の地域連携室長であります志鎌先生にしたいと思いますが、よろしいでしょうか。」

出席者　　意　見　・　異　議　な　し

「それでは、志鎌先生、よろしくお願いします。」

→　志鎌先生が自席から議事進行席に移動

志鎌地域連携室長

　地域医療支援病院としての役割を果たす要件について、説明をお願いします。」

菅原副室長

地域医療支援病院としての役割を果たす要件の実績報告いたします。
平成 28 年 4 月～12 月についてご報告します。

1.　地域医療支援病院紹介率・逆紹介率について
　1）紹介率 80％
　2）紹介率 65％　逆紹介率 40％
　3）紹介率 50％　逆紹介率 70％　のいずれか１つを上回っていることが必要です。
　　地域医療支援病院紹介率　　69.4％
　　地域医療支援病院逆紹介率　79.2％

紹介患者数　7，287 人　　初診患者数　　10，494 人　逆紹介患者数　　8，311 人

2.　救急医療の提供実績について
　病床数　ICU　　４ 床
　救急用又は患者輸送自動車により搬入した救急患者の数 3，183 人で 1，476 人が入院しました。
　上記以外の救急患者の数 2，244 人　で 1，613 人が入院しました。
　合計　　5，427 人　でうち 3，089 人入院しました。

3.　共同利用の実績
　病床利用　　0 件
　共同利用できる高額医療機器及び設備等　CT/MR/骨密度測定器　8 件でした。

４．　地域医療従事者等に対する研修開催実績

日　時　　研修名 演者等 参加者数
◆在宅医療コーディネーター研修会
（ケアマネージャー対象）　（第 2～第 8 回　4 月から 10 月まで計 7 回）　168 人
◆平成 28 年 8 月 24 日（水）19：00～　　第 6 回千葉市医療連携カンファレンス
『オークラ千葉ホテル』　　72 人
◆平成 28 年 10 月 6 日（木）19：00～　　地域連携講演会～漢方処方セミナー～
『ホールあおば』　講師:外房こどもクリニック　黒木　春郎先生 61 人

◆平成 28 年 11 月 10 日（木）18：30～　　第 2 回　在宅医療連携カンファレンス
『ホールあおば』　演者:風の村　園生診療所　佐賀　宗彦先生
　演者:千葉市立青葉病院　呼吸器内科　佐藤　峻　60 人
◆平成 28 年 11 月 30 日（水）19:00～　　青葉病院　糖尿地域連携カンファレンス
『ホールあおば』　演者:浜松医科大学附属病院　助教　釣谷　大輔先生
　座長:千葉市立青葉病院　院長　山本　恭平
　演者:千葉市立青葉病院　糖尿病･代謝内分泌内科統括部長　吉田　知彦　57 人
◆平成 28 年 12 月 9 日（金）18：00～　　青葉オープンカンファレンス～
『ホールあおば』講師:　三浦　信義先生（八千代病院　副院長）
　演題:せん妄について　　53 人

以上が開催実績です。

5.　患者相談の実績（4 月～12 月）
　社会福祉士 4 名　看護師 1 名　が担当　　相談患者総数　3696　　人

入院患者 1320 人、外来患者 296 人、その他 2080 人で、合計 3696 人に対応しました。
相談の主なものについて
受診・入院支援　　710 人　　転院・施設入所支援 560 人　自宅退院　　500 人
助産・母子福祉　　88 人でした。

6.　その他の地域医療支援病院に求められる取り組みについて
　①病院の機能に関する第三者による評価
　平成 27 年度受審申し込み、平成 28 年 7 月 28・29 日　病院機能評価機構受審し、1 月末に認定されました。
　②果たしている役割に関する情報発信
　広報誌「あおば」5 月と 12 月発行し、広報紙「もえぎ」16 回発行（平成 28 年末）しました。

　③退院調整部門
　平成 28 年度は、社会福祉士 4 名　看護師 1 名　が担当した。
　自宅復帰率　92%でした。

　④地域連携を促進するための取り組み（地域連携パス）

地域連携パス名	件数
大腿骨頚部骨折地域連携パス	34 件
脳卒中地域連携パス	9 件
大腸がん地域連携パス	2 件　を運用しました。

志鎌地域連携室長

「それでは、地域医療支援病院としての役割を果たす要件について、ご意見がございましたらお願いします。

古川委員：⑥の病院機能評価について教えていただきたい。評価が高いことを宣伝に使っている病院もあるが、病院機能評価の内容や対象を簡単に説明してほしい。

医事室長　髙橋：入院患者のシュミレーションなど具体的な内容になっているが、手元に資料がないので詳細は答えることができない。

古川委員：いわゆる診療的な治療成績が入るのですか。

志鎌地域連携室長：通常の診療時の内容の詳細についての審査でした。

山本院長：手続きや手順についての評価になっています。

古川委員：点数で評価されるのですか。

山本院長：合否だけです。

古川委員：順位はわかるのですか。国際基準などでは順位もあるようだが。

山本院長：日本の評価基準では順位はないので、ありません。

志鎌地域連携室長

「ないようですので、この議題については、説明のとおりとさせていただきます。」

続いて、在宅医療・介護連携の推進　千葉市立青葉病院の取り組みについて、説明をお願いします。」

菅原副室長

在宅医療・介護連携の推進　千葉市立青葉病院の取り組みについて、説明をさせていただきます。

◆在宅療養後方支援病院について

医師会との申し合わせにより、平成 9 年より「在宅医療支援病床」を、地域で療養される患者さんの在宅療養を維持継続する目的で運用してきた。平成 26 年度の診療報酬改定で「在宅療養後方支援病院」が新設され、「在宅医療支援病床」のシステムを再整備し、訪問診療を受けている患者さんを対象に登録を受けている。

平成 26 年 5 月 1 日に施設基準申請

登録医療機関　23 箇所　　登録患者　75 名　　受け入れ回数　24 回です。

退院前の患者宅に訪問し、患者・家族に対して退院後の在宅での療養上の指導を行っています。

◆訪問指導について

平成年度より退院前訪問を開始し、病棟看護師と地域連携室退院支援看護師が患者の自宅へ訪問指導を行う。現在の実績は、３例です

◆在宅医療連携カンファレンス
平成 27 年年度より、年 1 回在宅医と症例検討を通して問題提起や提案を行い、相互の立場を理解しあう中で、在宅医療を推進していこうとする試みを行っている。
平成 27 年は強皮症で在宅ＩＶＨの症例
平成 28 年は肺がん末期の症例のカンファレンスを行った。

◆在宅医療コーディネーター研修会について
医療依存度の高い患者やがん末期の患者の病状　理解や支援方法等について研修を行い、ケアマネージャーの医療知識の獲得を支援し、地域の中の在宅医療を担う人材の育成を行う目的で開催した。
当院医師・看護師・薬剤師による講義と医療機器等の体験・実技実習を行なった。
研修終了後のアンケート結果では、　　医療知識が獲得できた（22 名）
病院(連携室)に相談しやすくなった(15 名）医療依存度のある方の在宅療養について少し自信がついた～大変自信がついた(24 名）医療依存度のある方の退院支援に積極的に担当したい(11 名）であった。

◆出前講座について
市民の集会・会合に出向いて、市の政策や制度・事業について説明し、市民と対話する千葉市政出前講座で、「青葉病院の役割と上手な病院のかかり方」と題して緑区・若葉区でお話をさせていただいた。

◆医療と介護の交流会開催について
平成 25 年より 3 回、千葉市あんしんケアセンターと医療機関と「顔の見える関係」を築くため、グループワークを行った
訪問看護ステーション連絡会と一緒に医療機関・あんしんケアセンター・ケアマネージャー・行政でグループワークを行なった。
以上報告させていただきました。

志鎌地域連携室長
「それでは、在宅医療・介護連携の推進　千葉市立青葉病院の取り組みの取り組みについて、ご意見をお願いします。」

古川委員：医療だけではなく在宅のことも考える必要がある。今が医療をしながら介護が必要になってきているので、こういう考え方はいいと思います。もっと宣伝してはどうでしょうか。
市政だよりに載せるなど、例えば一診療所が青葉病院のことを知る為に、青葉病院として啓蒙活動をもう少し頑張ってもらいたい。
志鎌地域連携室長：開業医の訪問などもしています。これからも宣伝できるように営業活動を頑張っていきます。

斉藤委員：後方支援病床は専門病床としてやっているのか。
それともベッドが空いていれば受け入れるのか。
志鎌地域連携室長：相談があれば、その都度調整を行います。
斉藤委員：必要な時にベッドが空いていない、ベッドがいっぱいになると緊急の人が優先になってしまうなどいろいろあると思いますが、これからもぜひ在宅を頑張ってもらいたいと思います。
志鎌地域連携室長：在宅登録の患者様は原則お断りしない。今のところほぼ断ることなく受け入れることができています。

志鎌地域連携室長
「ないようですので、この議題については説明のとおりとさせていただきます。」

志鎌地域連携室長
「議題は以上でございますが、その他、何かご意見のある方はいらっしゃいますか。」

斉藤委員：地域連携室から届くFAXが非通知になっている。開くと青葉病院からであることがわかる。非通知だと開かない人もいる。情報伝達の手段として利用しているのに、非通知だと拒否する人もいると思うので、その辺は考えてください。
志鎌地域連携室長：注意します。
小出委員：逆紹介、紹介、よく聞かれるので聞きますが、逆紹介の人は希望すれば青葉病院にかかることができるのか。逆紹介先だから診てもらえるよと答えていいものなのか。かかりつけと言って診てもらえるのか。
志鎌地域連携室長：かかってからの期間にもよります。
古川委員：どこでも同じ問題。患者さんは昔かかったから何かあったら診てもらいたいと思っている。過去に診る患者さんは引き受けいると明文化できるか。
志鎌地域連携室長：救急などはその時の対応によるが基本的には引き受ける方向で対応している。
古川委員：いつまでとはっきり言えないですよね。
横田診療局長：半年までは診るようにしています。大まかにですが、半年までは外来に来たとき対応するようにしています。
山本院長：医師の中でも考え方はバラバラで、コンセサスができていない。個人からの相談なら一応半年を基準にしている。
古川委員：病院にもよるが、半年は無理という病院が多くて、椿森の某医療センターは３か月と言っている。３か月経つと初診扱いになって、新しい紹介状を用意して持参するように言われる。
志鎌地域連携室長：半年以内であれば、外来は大丈夫です。当院としては、現在地域包括ケアを目指しています。その中で、できる対応をしていきます。

「他に何かございますか。」

「ないようですので、以上をもちまして、平成２８年度第２回千葉市立青葉病院
地域医療支援病院　運営委員会を閉会させていただきます。
本日は、お忙しいなかご出席をいただきまして、誠にありがとうございました。
なお、事務局よりご連絡がございますので、よろしくお願いします。」

事務局

「皆様、お疲れ様でございました。事務局より１点ご連絡を申し上げます。
次回の開催でございますが、後日、事務局よりご連絡をさせていただきますので、当運営委員会への出席につきまして、ご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。
本日は、お忙しいなか、誠にありがとうございました。」